

# ご存じですか？ アルコール依存症の 治療には、断酒友の会による悪習脱出を！！



昭和43年 北九州断酒友の会 松ヶ江病院支部 結成当時

酒類は多量に用いると嗜癖から心理的依存へとアルコール関連問題が発展し、その酒害のため飲用をやめる際に、離脱症状という麻薬の禁断症状に類似した不快な心身の変調が見られる身体依存を引き起こす要注意飲料でもある。

私がアルコール依存症の成り立ちとその治療法について、真の理解に到達したのは、九州大学精神科在局中でも北九州門司地区で初の精神科病院を開

設した昭和36年でもなく、昭和43年1

月に、全日本断酒連盟傘下の北九州断酒友の会のお世話で、松ヶ江病院支部を創立してからであった。入院を繰返していたアルコール依存症の当事者と不幸な家族に画期的な夢と希望の灯が点り、断酒研修の月例会とその夫婦学習から、多数の回復者を排出した。

「アルコール依存症は回復可能な心の病気である」ことの生き証人として、当院のアルコール症リハビリテーションプログラムは、34年間発展し続けている。

## 開放的な任意入院 と断酒会

自助グループの一つA・A（\*）はアメリカで1935年に誕生した。これを日本風にアレンジしたのが断酒会である。アルコール症同志が一週間飲まずに頑張れたら、同じ場所、同じ時

間に再び逢おうという単純な約束事が、今迄の劣等感・孤独感から、共通な酒害の悩みを持つ仲間意識に代わって大きな支えとなり、互いに気易く語りあう過去の酒害体験談の繰返しが精神療法の内省の効果を生んだ。

素直に客観的に、酒の害が自分の人間としての生き方を邪魔していることを洞察し、その明確な自覚と、酒抜きで味わう真剣な和に満ちた断酒例会の学習によって、断酒会員は酒に対して、それを避ける慎重さを持ち、二度と酒による気分転換の無謀「再発」に陥ることがない。これは医療の固定概念からでない、自己体験を通して内面から他者のアルコール症をみるという行動療法的な集団精神療法である。

アルコール症に対する医師の役割は病気の診断を説得する迄で、その後は身体合併症治療と併せて、断酒会活動を紹介することである。

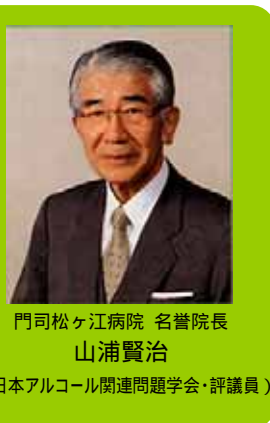
## アルコール

### 依存症とは

人類の歴史と共にアルコールという飲料は全世界の生活の中に浸透しているが、《百薬の長》と珍重される反面、《気狂い水》とも怖れられる両刃の刀の性質を持っている。



第30回 断酒会創立記念例会



門司松ヶ江病院 名誉院長  
山浦賢治

(日本アルコール関連問題学会・評議員)

断酒会のアフターケアは第3次予防「再発予防」に当たるもので、一杯飲めば、そのスリップが忽ち腹一杯飲酒の渴酒症状を惹起する慢性進行性致死性疾患の姿に逆戻りするのを阻止する為に不可欠のものと、全世界的に認識されている。

当院のアルコール症治療病棟は、全て任意入院であり、3カ月の治療期間の中で、自主的参加の断酒会学習と試験外出泊を繰返して『自由と尊厳と生産性』を取り戻すことを目標としている。

## 増えるアルコール症と

### ACCOA(★★)

厚生労働省では全国のアルコール症者を240万人と推計している。家庭での常習飲酒者の10分の1に発症する酒害者が内科及び精神科で入院治療しているが、働き手の喪失による家計破綻、酒乱による家族崩壊、ACCOAといわれる酒害者の子供の心の傷の後遺症の続発に不運を嘆いた時代に終わりを告げるのが断酒会を導入した治療である。本年度の全国大会には5000人の参加があり、自助グループ活動は全世界的に展開されている。

## 節酒教育はフランスで成功

### アルコールハラスメントNO!

世界一の飲酒国で肝硬変の発生もトップになったフランスでは、小学生対象の酒害教育徹底(勿論テレビCM厳禁)で肝硬変は激減した。

ところで、日本では派手なCMがテレビに氾濫して、未成年者の飲酒誘惑を煽り「未成年ノ飲酒ヲ禁ズル法律」を侵犯させる元区となり、新人歓迎会や忘年会では先輩に強制されての急性アルコール中毒死が毎年ある。私はアルコール症の第1次予防として、心の健康相談事業で青年期のストレスと酒・煙草の害をテーマに講演し、アルコールハラスメントの撃退法を伝授することにしている。若年の飲酒による事故では、ある大学医学部の酒席で、昏睡状態のまま放置された男子学生が死亡し、両親が大学関係者を刑事告発したことで「アルハラ」への関心を高めたが、余りにも残念な我が国の悪習癖による犠牲と損失である。

読者の皆さんも、健全な社会人のマナーとして、自分の隠れアルハラ度をチェックしてみましょう。

\* A.A=Alcoholics Anonymous \*\* ACCOA=Adult Children Of Alcoholics

## 《アルハラ意識チェックリスト》

イッキ飲み防止連絡協議会事務局(東大阪市)作成  
下記の11項目中、1項目でも該当したら、あなたはアルコールハラスメントを行う可能性があります。

- 飲み会を盛り上げるためにイッキは必要。
- 相手にアルコールを勧めるのは礼儀だ。
- 訓練すればアルコールに強くなる。
- 皆で酔っ払ってこそ連帯感が生まれる。
- 本音を聞くには飲ませるのが得策。
- 飲めない男性は、なんだか男らしくない。
- 乾杯はアルコールで全員すべきだ。
- 酔い潰しても、吐かせるか寝かせておけば大丈夫だ。
- 女性がお酌するのは当たり前だ。
- 未成年でも少しなら飲ませてもかまわない。
- 「あの時は酔っていたから」と言い訳する事が多い。

## 《お知らせ》

### 第34回 支部創立記念例会

(北九州断酒友の会 門司松ヶ江病院支部)



断酒会記念例会アトラクション

テーマ『支え合う』

日時:平成14年1月14日(月)祝日 12時~16時

場所:門司松ヶ江病院 体育館にて

問合せ:(093)481-1281 支部長:伊藤まで